



あじさいネット OFF LINE 通信

vol. 3



【大村 PA から望む大村湾】
写真提供 宮下 光世 先生
(長崎川棚医療センター院長)

目次

会員様の声

中田外科胃腸科	中田 俊則 先生	2
麻生外科医院	平田 恵三 先生	3
きらら薬局	河村 綾子 先生	4

情報提供病院のご紹介

国立病院機構 長崎川棚医療センター	地域医療支援センター	5
国立大学法人 長崎大学病院	地域医療連携センター	6

シリーズ あじさい TALK 第1回

対談 長崎大学病院長 河野 茂 先生 × 松本 武浩 先生	7
-------------------------------	---

レポート 第3回あじさいネット研究会	8
--------------------	---

現在の運用状況

(平成 24 年 6 月 15 日現在)
 患者登録数 21,934 名
 (全件書面同意取得済み)
 会員数 219 名
 情報閲覧施設数 151 施設
 (内、調剤薬局数 18)
 情報提供病院数 14 施設

協賛メーカー (賛助会員)

- (株)ホギメディカル福岡営業所
- 日本電気(株)医療ソリューション事業部
- 三菱化学メディエンス(株)

基本理念

地域に発生する診療情報を患者さまの同意のもと、複数の医療機関で共有することによって各施設における検査、診断、治療内容、説明内容を正確に理解し、診療に反映させることで安全で高品質な医療を提供し、地域医療の質の向上を目指すものです。

NPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会



家庭医でありたい。あじさいネットはそのためのツールです。

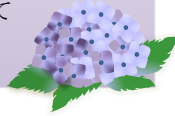


DOCTOR'S PROFILE

S41年 長崎大学医学部卒
H6年 開業
H16年 発足当初より
あじさいネット会員

■あじさいネット監事

中田先生は、発足当初からあじさいネットに入会し、活発に利用されています。延べ480附近くの登録をされています。



私は、現在の長崎医療センターが『ながちゅう』と呼ばれていた長崎中央病院時代に二十年近く勤務していました。開業が平成六年です。開業当初、医療センターは紙カルテだったので、紹介した患者さんの経過がどうかと思うような時は、仕事を終えて医療センターに赴き、カルテを見せてもらったことよって検査データとか情報を入力することができていたのですが、電子カルテになると、そういう情報が簡単には見れなくなっただけですね。

あじさいネットの立上げ当初「あじさいネットを通じ、医療センターの検査データや画像といった情報を当院で見ることができるといふことを聞いたものだから、すぐ入りたいな」と思い入会しました。

大村市古賀島町

なかた としのり

中田外科胃腸科 中田 俊則 先生

TEL : 0957-54-0083

内視鏡検査とかCT検査といった画像診断が非常に見やすいです。

あじさいネットを使うとCTでの血管画像といったものまで、当院で見ることができずので、素晴らしいなあと思いますね。

CT検査の利用では、紹介した患者さんは朝九時ころ基幹病院にCT検査に行きます。当院に十一時頃帰って来られる時には、写真とレポートがあじさいネットで見れるので、それらを見ながら患者さんに「こういうふうなところに所見がありますよ」と画像を見せながら説明をしています。視覚に訴えて、丁寧に分かりやすく説明できますから、患者さんによく理解してもらえています。例えば乳がん検診の場合、マンモグラフィや超音波、MRIといったものを一連のシリーズものとして見ることができると非常に助かっています。

あじさいネットでは、カレンダーが表示されます。それを見ると、日付毎に検査結果、治療内容、処方薬といったデータとカルテの記録や熱型表などが一目で分かるようになっていんですね。ですから紹介した患者さんの入院中の経過や退院後の基幹病院での外来の経過を、きめ細かに把握することができます。

入院した患者さんのカレンダーを見ると手術予定日が分かります。このため時間があれば自分が紹介した患者さん全例ではないですが、昼休みなどを利用して手術を見学に行きます。どういうふうな手術をされているのかを見たり、鏡視下の手術など新しい手技を学んでいます。

中田先生にQ&A!

- Q. 入会時に印象に残ったこと
A. 子供たちとメールしようと思って設置していた外来のパソコンに、業者さんが30分ほどでVPN機器を取り付けていきました。簡単に使えるようになった早さにちょっと驚きました。
- Q. 先生のあじさいネットの利用法は幅が広そうですが?
A. 患者さんが基幹病院の予約日を忘れた際に、あじさいネットで調べて受診日を教えてあげたりと、色々な使い方をしています。
- Q. 信条を教えてください。
A. 一人一人の患者さんを一生懸命診て、家族ぐるみで受診して頂けるような家庭医になりたいなと思っています。
近所のおいちゃんやおばあちゃん、子供さんとか色々な方と接しながら診療できたらいいですね。

あじさいネットの参加同意の説明について

「このパソコンと医療センターの電子カルテはつながっていますから、向こうで検査したデータはすぐここで見れますよ」といった説明をします。今まで断られたことはありません。最近ではあじさいネットをご存じの方も多くなりました。

あじさいネットが大村で浸透したように感じます。

あじさいネットへ期待すること

当院からの情報を基幹病院へお届けできるようになったらいいですね。

基幹病院の専門の先生方に、前もって相談してみたい症例が時々あります。そういった時、当院の情報を専門の先生に一回見てもらって「こういった治療をしてみてください」とか「これは大きな病院に紹介してください」といった相談ができればいいですね。

専門連携の現場でも利用しています。

夜明け前から黎明期を経て
これからは展開期ですね。

長崎市内で平成二十一年にスタートをきるまでの4年が大変でした。まず、他地域でのネットワークの調査・評価から始まり、長崎市医師会員、基幹病院への説明会の開催や、アンケート調査を頻回に行いながら、議論・検討を重ね進めました。

その頃の僕たちは、島崎藤村の書物じゃないけど「夜明け前」でした。まさに手さぐりの段階。そして「夜明け前」から、試験的に始めた「黎明期」があつて、今、あじさいネットは長崎市にもすっかり定着しました。まだ入会希望の先生方が皆入会したわけではありませんが、確実に拡がりをみせています。

これから「展開期」ですね。



・DOCTOR'S PROFILE・

H 元年 関西医科大学医学部卒
H 8年 開業
H21年よりあじさいネット会員
あじさいネット運営委員
あじさいネット準備委員会(兼)
あじさいネット運営委員長崎地域部会
長崎市医師会理事

長崎市滑石

麻生外科医院 平田 恵三 先生

TEL : 095-856-2255 knsra@ngs2.cncm.ne.jp

大学病院と診療所を結ぶ
循環型地域連携でも
あじさいネットは有効です。

僕は、今、長崎大学病院のリウマチ治療の循環型地域医療連携に携わっています。これは長崎大学病院第一内科リウマチ・膠原病内科の川上純教授が構築されたシステムで、患者さんが、大学病院とかかりつけ医を定期的に行き来する事によって患者さんを地域全体でサポートするものです。

【二人の主治医がいる安心】を実現

リウマチ治療は、最近めざましく進歩していて、生物学的製剤治療により、以前は難しかった寛解までもつていくことができます。しかしながらこういった薬剤は他の一般薬よりも効果は高いけれども副作用も強い傾向がありますので、大学病院に入院して集中的な高度専門医療を行い、ある程度病態が落ち着いてリウマチレックスといった内服薬を使う段階で、我々診療所の医師が受け手となり、継続的な治療と医療相談を行います。

そこで、あじさいネットが役に立っています。大学病院でそういった難しい治療をしているとCTや検査データなど膨大なデータが記録されています。そういったデータを送ってもらうことも、患者さんに渡してもらうことも大変です。しかし紹介時に「あじさいネットに登録しますよ」って書いておくことで送ってもらう必要がない。大学病院のデータは全部逐一分かるし、経過も分かりますからね。

立上げ準備の隊長でした(笑)



看板娘のうらちゃんです!

長崎地域でのこれから

長崎大学病院の松本武浩先生に船頭役になってもいい、長崎地域での道筋は作ったつもりです。今後はこの役職や色々なことを若い後身に任せて更なる発展を少し離れたところから見たいなどというところです。

現在、長崎市の会員は七十名くらいです。早い時期に二百名に近づきたいという希望があります。

あじさいネットで画面を見ながら患者さんに説明するとすごく喜ばれます。拠点病院では敷居が高いから、質問をしたいけどできなくて「ここで教えてください」って言われることが多いですよ。こういうシステムがあることを、我々診療所の医師と拠点病院の医師そして受ける側の市民にもっと知ってもらいたいのです。また早いうちに当院からの診療データも拠点病院に提供できるようにしたいですね。

あじさいネットへの要望

病院毎の方針で利用できる診療情報には違いがありますが、できるだけ多くの診療情報を提供して頂きたいと思っています。なかでも特に画像、読影レポートは是非とも出してもらいたいです。

あじさいネットを使ってより適切に安心な服薬指導へ。

入会のきっかけ

大村市の医師会と歯科医師会と薬剤師会の三師会は日頃から交流があります。あじさいネットへの入会は、そんな日頃から親交があった大村市医師会の先生方や大村東彼薬剤師会の理事の方々に声をかけて頂いたことがきっかけです。

最初はあじさいネットがどういったものかよく分からないまま【医療ネットワークシステムを利用して長崎医療センターのカルテを見ることができると説明を受け、実感が湧かないまま入会しました。当初は利用していませんでしたが、折角あじさいネットにながっているのに、利用しないのは勿体ないなど思っあじさいネットの画面を開いたところ「あっ、こんなに情報っていっぱいあるんだ」と驚き、それから活用するようになりました。



あじさいネット
利用風景

大村市富の原

きらら薬局

かわむら

あやこ

河村 綾子 先生

TEL : 0957-49-0850

ali_ali505@yahoo. co. jp

実際に使ってみて

あじさいネットを利用すると拠点病院のカルテを通して、患者さんが病院に足を運んだ理由から医師の薬の処方意図まで分かります。また、治療内容に変更があった場合や、薬が新しくなったり、変更があったときも画面を通して詳細を知ることが出来ます。検査値等も知ることが出来ますので、これらの情報をもとに「大変でしたね。痛かったですね。」とか「副作用は、出ないようですよ。良かったですね。」とお声かけをしています。患者さんを質問攻めにしなくても、適切な服薬指導ができます。

薬剤師が医師からの正確な情報を知ること、患者さんに安心感をもって説明できると、患者さん自身もお薬に対してより安心して頂きますし、医師とつながっていることがよく分かるのですごく安心されるみたいですね。

薬局は患者さんにとってより良い薬の飲み方を提案していける場所

医師は治療方針や薬の処方でも最適な選択をします。薬剤師は患者さんの日々の生活の中で、できるだけ負担なく適正に服薬を続けて頂くために服薬指導を行います。

薬局では、患者さんの垣根が低い分、要望や不安をお聞きすることがよくあります。

私は、医師が出したベストな処方と患者さんの要望を受けとめて、より良い服薬方法を提案していける場所が薬局だと思っています。あじさいネットを利用すると、様々な情報をもとに従来と比べてより細やかな提案ができますので、非常に有効だと思います。



・河村 綾子 先生 PROFILE・

H 元年 京都薬科大学卒
23年 開局
21年よりあじさいネット会員
大村東彼薬剤師会理事

参加同意の説明について

私の持っているあじさいネットのイメージとしては、患者さん一人に対し、私たち薬剤師、拠点病院の医師、地域のクリニックの医師でチームを作れるって思っています。患者さんに対してすごくメリットになると思ってお話するからか、参加同意で断られたことはないです。

―座右の銘―

一期一会です。

患者さんとの出会いもそうですし、人との出会いもそうかなと。わざわざ薬局に足を運んでくださった方はすごく大事にしたいなと思います。あじさいネットに入会したのも医師会の先生方とのつながりがあったから。人と人とのつながりがあじさいネットの基盤にあって、それが広がっていつてますよね。これからも人との出会いとかつながりは大事にしていきたいなと思います。

情報提供病院のご紹介

(県央エリア)

国立病院機構

長崎川棚医療センター 地域医療支援センター

ようきけん

「養氣軒 病む人のために」が基本理念の長崎川棚医療センターに伺いました。

長崎川棚医療センターは平成23年7月から情報提供をスタートしました。



みやした こうせい

Message/ 宮下 光世 院長

S53年 長崎大学医学部卒

専門：外科

H19年より現職

あじさいネット[®]で診療援助のサポート体制を強化しています。

当院は全診療科があるわけではなく、現在常勤麻酔医が不在ですが、外科、脳外科の救急手術や整形外科の緊急手術を行っていますので、手術の際には麻酔科医に診療援助に来て頂いています。

昨年より麻酔科医があじさいネットを利用できる体制を整えました。手術前にあじさいネットを通じて、麻酔科医に患者さんの電子カルテの診療情報を見て頂いています。そうすることによって手術をよりスムーズに行えるとともに、問題点があれば事前に解決してより安全な手術が行えます。

全ての病院が全ての診療科を網羅できるわけではなく、また、昨今の医師不足や医師の偏在といった問題が多くある中で、あじさいネットを使った診療連携、診療援助、サポートができることは一つの解決策になると考えています。

今回、医師の異動により糖尿病専門の医師が不在になるため、糖尿病患者さんに対し十分な対応ができない状態になります。

今後あじさいネットを利用して佐世保中央病院の糖尿病センターの先生方と糖尿病患者さんに対する診療や外科手術をコンサルティングできるシステムを作ることを検討しています。

県を超えた広域に亘る病病連携に期待

当院は県央二次医療圏の北端に位置しているため大村市、佐世保市、嬉野市と広域に亘り連携をしています。今後はそういった地域と病病連携を進めていきたいですね。佐賀県嬉野市の嬉野医療センターとも連携していますので、将来的には県の枠組みを超えてあじさいネットに参加できるようにすることに期待します。

神経難病治療への活用を検討

当院は急性期医療を担うと共に、神経難病の基幹病院として、神経難病の患者さんを広域にサポートしています。離島には当院の医師が赴き地域の診療所や患者さんのサポートや診療相談を行っています。そういった場面でもあじさいネットを有効に利用していけたらと考えています。

地域の診療所の先生方へ

整形外科などの外科系の先生方にオープンシステムをもっと利用してほしいですね。

手術後にクリニックであじさいネットを活用して診療に役立ててもらえたらと思います。以前、当院に勤務し手術していた先生でしたら見慣れたカルテでしょうし。



地域医療支援センターより

●診療所の先生方へ

同意書に関して、運用がスムーズにいかない場合がありますので、正しい同意書の取り扱いをお願いします。

診療所の先生に、患者さんの入院後にあじさいネットへの登録を依頼されるときがあります。参加同意の取得を当院の医師に委ねるため、どうしてもタイムリーな登録ができませんので、急を要する場合は、診療所の方にご家族の方を呼んで頂いて、二親等以内のご家族の方に代理人記載の同意書をとって頂いた方がスムーズにいくのかなと思います。

●登録作業中に不具合が起こったときは？

全体のシステムを管理している宮崎システム管理者に連絡し迅速に対応しています。



後列左から岩野室長、松尾副院長
総合情報管理室 中根室長、宮崎(システム管理者)
前列左から岩崎看護師、平塚(事務)、北野(事務)
松本(総合情報管理室)、鶴田係長
他連携室スタッフ:西田 MSW

情報提供病院のご紹介

(長崎市エリア)

国立大学法人

長崎大学病院 地域医療連携センター

長崎地域であじさいネットが運用を開始したのは平成 21 年 4 月。

長崎大学病院は、第一期稼働施設として情報提供をスタートしました。

かわさき こうじ

・ Message / 川崎 浩二 先生「地域連携の中でのあじさいネットの可能性に期待」



川崎 浩二 副センター長
長崎大学病院
地域医療連携センター 准教授
S58 年 新潟大学歯学部卒
専門：予防歯科学・地域医療学
H15 年より現職

退院時共同指導を行う場合に 事前に情報共有ができる運用

入院患者さんの退院前に在宅医療への移行準備として、関係者で打合せ【退院時共同指導】を行います。構成メンバーは、患者・家族、大学病院の主治医、看護師、当センターの看護師、場合によっては医療ソーシャルワーカーや薬剤師、そして在宅を担う医師、訪問看護師等です。

退院時共同指導の前に患者同意のもと、在宅医療関係者があじさいネットを通して大学病院での治療内容や経過、服薬指導などを情報共有できれば、事前に内容を正確に把握できるとともに、医療関係者への説明時間も軽減されるので、よりスムーズな退院時共同指導ができると思います。

在宅医療へ移行した患者さんの フォローアップができる運用

大病院の医療従事者は、在宅医療移行の事前準備として生活環境を整えたり、活用可能な社会資源の調整を行います。在宅移行後の経過を知ることができません。

長崎在宅ドクターネットでは、メールアドレスを使って情報共有を行っています。あじさいネットでもそのような機能が求められています。

具体的には、訪問診療に携わる医師、看護師、ケアマネジャー、薬剤師が、掲示板形式であじさいネットに現在の状況を書き込みます。それらを通じて【もつと早く在宅に帰すべきだったのか】【在宅に向けての生活環境や療養支援に関する社会的資源の活用は充分だったのか】といったことが把握でき、在宅支援に関する問題点がより明確化されます。現在このような仕組みがあじさいネットで準備されつつありますが情報のフィードバックができれば更に在宅医療の質を高めることができると思います。

あじさいネット上での 地域連携パスの運用



5 大がんの地域連携パスをあじさいネット上で利用できたらと思います。地域連携パスは、基本的に紙ベースで運用されています。例えば、乳がんの場合は拠点病院で手術後、診療所に通院しながら、拠点病院で定期的に受診してもらうパターンが多く、いくつかの診療所と連携しています。これらの連携パスの運用があじさいネット上で可能になると、よりスムーズに連携が行えると思います。



前列はあじさいネット受付担当スタッフ。左から松崎、上原、福田。登録作業は3人でを行っています。システムに不具合が生じた時はSECの伊藤さんと連絡をとり迅速な対応を行っています。

■地域医療連携センターより

あじさいネット会員の皆さまへ

同意書の原本は、定期的に早めに送って頂けると助かります。

先日、患者さんが受診時に原本と撤回届と一緒に総合受付に出されていました。このようなことも時々ありますので、患者さんへのご説明の際にはご注意ください。

あじさいネットへの要望

閲覧有効期限内の患者さんの同意書が送られてくる場合があります。また逆に、診療所の先生が有効期限が過ぎていることを気付かずに、画面を見ることができないこともあります。

同意書の閲覧有効期限は6か月間ですが有効期限内かどうかは画面を操作していかないと分かりませんので、最初の画面の一覧リストに、有効期限が簡単に把握できるような機能がほしいです。有効期限が最初の画面ですぐ分かれば、利用される先生方の手間をわずらわせることもなくなりますし、登録作業する上でも助かります。

シリーズ「あじさいTALK」 第1回

地域医療連携における大学病院の役割と「あじさいネット」での連携のあり方 長崎大学病院 河野 茂 院長 × あじさいネット理事 松本 武浩 先生



河野 茂 院長
S49年 長崎大学医学部卒業
H21年 4月より現職
専門は呼吸器内科学

松本 ■「あじさいネット」は地域医療連携の強化という側面がありますが、最近の大学病院での地域医療への取り組みを教えてください。

院長 ■大学病院の役割は「診療、教育、研究」です。そのいずれも重要ですが、地域の中では地域医療の最後の砦としての高度医療と診療支援が求められています。このため脳卒中センターと外傷センターを含めた救命救急センターを設置して2次から3次医療までに対応できる体制を整えました。先月から一刻を争う重篤な患者の救命率を上げるためドクターカー「龍馬」も設置しました。

松本 ■最近では大学病院から診療所に紹介する逆紹介も盛んになっているように感じます。

院長 ■今の医療は、診療所の先生、拠点病院、そして大学病院がうまく連携がとれないとそれぞれの機能を十分に引き出すことができないと考えています。

当院では地域医療連携センターを充実させ紹介・逆紹介に力を入れています。

市中の病院や診療所の先生方と密接な連携をとり、必要であれば大学病院でいつでも診ますが、普段の診療は診療所で診てもらう型の診療を奨励しています。ただし専門性が極めて高い、合併症を持つ場合は、その疾患分野を大学病院が請け負う「ダブル主治医」型の連携も広がっています。

松本 ■そういったケースでは、まずまず診療情報連携（共有）が重要ですね。

院長 ■確かに診療情報の連携が十分にできていないと、質の高い診療に支障があるばかりか、患者さんが診療に不安を感じてしまおうと思います。安心して診療所や一般医療機関に通院してもらうためには、お互いに一歩踏み込んで診療情報の連携を深めることが必要ですね。

松本 ■あじさいネットは、拠点病院のカルテ内容が見れるので、拠点病院との連携が密であることを患者さんに理解してもらいやすいと聞いています。

院長 ■あじさいネットのようなIT連携を通じて「あなたの病気を、拠点病院とかけつけ医、お互いがちゃんと見て全て知っていますよ。」という体制は必要ですね。

松本 ■4月から大学病院も医師の2号用紙の共有を始めました。会員の皆様からは大学病院のカルテは詳しく書いてあると聞いています。

院長 ■診療録記載は医師法で定められた医師の義務ですが、記録の中で診断

あるいは治療の根拠や正確な治療内容経過・結果を示すことが、医療の質を間接的に証明する手段でもあります。また、保険診療上、記録がなければ算定できない加算項目は多く、記録の充実は大変重要です。

診療録の適切な記載は、昨年受審した特定共同指導での最も重要な指摘項目でもあったため、その前後で診療録記載の指導を強化しました。

特に若い人はこのような考え方を徹底的に学んで欲しいと考えています。

松本 ■新たな取り組みとしてあじさいネット上での医療関連講演のビデオライブラリーや専門カンファランス中継を検討しています。

院長 ■地域の講演においても診療所の先生方は患者さんの状態次第で急に参加できなくなることが多いですね。自分の興味ある疾患分野の講演内容を検索して休み時間にもゆっくり勉強できることは素晴らしいですね。

離島やへき地の先生方もなかなかそのような勉強会に参加できる機会も多くないでしょうし、役立つものと思いません。病院の勤務医にも有効でしょうね。



Matsumoto Takehiro

松本 武浩 先生
H元年 長崎大学医学部卒業
長崎大学病院医療情報部准教授
あじさいネット理事

松本 ■カンファランス中継を提案したところ、医学部の講義を有料でいいから是非、聴講したいという声がありました。

院長 ■それも素晴らしいですね。医療従事者は医者に限らず、全て生涯教育が重要です。医学の進歩の速さは診療所の先生方が一番感じられていると思いますので、もう一度基本から勉強し直すことは非常にいいことですね。医学として変わったところ、変わらなところ、それらをまたフレッシュな気持ちで聴講されると、講義する方もさらに熱心になると思います。

松本 ■最後に、あじさいネットを発展させていく上で、何が必要と思われませんか？

院長 ■私自身も心配していることですが、診療情報という患者さんの個人情報適切に扱っているのが、非常に重要な問題です。大学病院でも意識の低い先生が多くいます。あじさいネットは、全国から注目されるネットワークとなり、全県に広がっていますが、情報漏洩事故があれば大きな傷がつき、場合によっては運用継続が難しくなるでしょう。ハード面でのセキュリティは万全と聞いていますが、長崎大学病院でも患者情報を記録したUSBメモリーの紛失事故があったように、それだけでは守れません。県内全体で一斉協力して患者情報を守る意識の啓蒙と教育に力を注ぐ必要があると思います。

逆にそれができれば、あじさいネット内だけでなくあらゆる医療機関における情報漏洩事故も防ぐことができるのではないのでしょうか。

松本 ■本日は大変お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。

〈開催日時〉平成24年5月19日（土）14：30～

〈開催場所〉活水女子大学看護学部・大講義室（大村市）

平成23年度 第2回理事会 14：30～

平成23年度 臨時総会 15：00～

議案として定款及び利用者規定の一部改正、理事・運営委員の交代などについて取り上げられました。
過半数の賛成により、取り上げられた議事は全て採決されました。



第3回あじさいネット研究会 16：00～

ープログラムー

開会の挨拶 小尾 重厚先生（あじさいネット会長・おび産婦人科医院 院長／大村市）

「今回の研究会では拡大・発展と地域連携への原点回帰という両方向のテーマを考察してあじさいネットを更に発展させる機会としたい。」



藤井 卓先生（藤井外科医院 院長／長崎市）

「長崎市地域での在宅医療とあじさいネット」

藤井先生は、認定NPO法人長崎在宅Dr. ネットの理事長を務めており在宅・訪問診療にも力を入れています。長崎市で、現在試みられている在宅医療や多職種連携でのあじさいネットの利用法と今後の可能性について講演されました。



田崎 賢一先生（田崎医院 院長／大村市・あじさいネット理事）

「大村市地域でのあじさいネット」

田崎先生は立上げ当初よりあじさいネットに携わっており、現在、県央地域部会の中心的な役割を担っています。今回、大村地区での活動報告と、在宅医療でのあじさいネット活用に向けた施行について講演されました。



宮崎 長一郎先生（長崎県薬剤師会 会長・（有）宮崎薬局／長崎市）

「あじさいネットの薬局における利用の実際」

宮崎先生は長崎県薬剤師会会長として薬局でのあじさいネット活用を推進しておられます。今回、すでに運用している薬局に対するアンケート結果に基づき予想以上に検査データを閲覧している点を報告されました。



柴田 真吾先生（市立大村市民病院 医療情報企画部長・あじさいネット理事）

「病病連携でのあじさいネット利用」

柴田先生は病病連携について運営委員会等での議論・検討内容、病院間での調整検討内容に最新の知見を加え、想定される新たな利活用パターンの紹介と、今後解決すべき諸問題について講演されました。



松本 武浩先生（長崎大学病院 医療情報部准教授・あじさいネット理事）

「あじさいネットの新たな機能と価値—地域医療再生基金を使った機能拡充計画—」

松本先生は今後あじさいネットの新たな機能として追加される離島・救急医療支援システム、高品質遠隔画像診断システム、周産期・小児発育支援システム、生涯教育システム、TV会議システムについて講演されました。



【特別講演】大分県別府市医師会 事務次長 田能村 祐一

「ゆけむり医療ネット」における検査・健診情報の活用と今後の展望

別府市医師会は早い時期からあじさいネットの見学にみえられ、平成22年にはあじさいネットを参考とした「ゆけむり医療ネット」を運用開始しました。今回は特徴的な健診情報のネットでの利用や現在の機能、今後の展望について講演されました。



今回は、開催の広報を控えていたにも関わらず、全国から約130名の参加がありました。また、研究会後の懇親会にも多数の参加があり大盛況のうちに幕を閉じました。懇親会では出席された方々にご挨拶を頂き、皆さまの医療と医療連携に対する熱い想いが伝わってきました。

◆協賛メーカー◆



HOGY®

一步先の手術室環境づくりをお手伝いします。

ホギメディカルでは、不織布・キット製品など感染対策製品および理想的な病院経営を総合的にサポートする手術管理システムをご提供しております。

国内最大級の生産・滅菌システムと全国25箇所の営業所ネットワークによって安定的な製品提供ならびにお客様サポートで「安心」をお届けしております。

株式会社 ホギメディカル

本社：東京都港区赤坂2-7-7 TEL:03-6229-1300 FAX:03-6229-1344



Empowered by Innovation **NEC**

地域に分散した診療情報を統合して共有するネットワークサービスで地域医療連携をご支援します。

NECの地域医療連携ネットワークサービス

まずはWebで、詳細情報を。 [NECの地域医療連携](http://www.necgook.com/) [検索](#)

お問い合わせは、NEC(医療ソリューション事業部)へ
〒108-8001 東京都港区芝五丁目7-1(NEC本社ビル) TEL. 03(3798)6756

<http://www.nec.co.jp/>

人と地球にやさしい情報社会へ

Good Health Creator, MEDical+sciENCE

独自の事業スタイルを基盤として
ヘルスケア分野に新たな潮流を生み出します。

東日本大震災に被災された皆様に対し、謹んでお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



事業内容

- 臨床検査
(生化学的検査・血液学的検査・免疫学的検査・微生物学的検査・遺伝子関連検査・病理学的検査・その他検査)
- 予防医学関連サービス
- 医療関連サービス
- 体外診断用医薬品・体外診断用機器・試薬等の開発・製造・販売及び輸出入
- 医薬品・化学品の毒性試験・薬効薬理試験
- ヒト細胞による薬効・毒性評価
- 遺伝子・タンパク質解析
- 医薬品・農薬・化学品・食品添加物・化粧品等における安全性評価・環境リスク評価サービス
- 食の安全サポート
- F-ベング検査

三菱化学メディエンス株式会社

〒108-8559 東京都港区芝浦四丁目2番8号
TEL.03(6722)4000(代表)

あじさいネット入会方法のご案内

1. 入会

入会申込書を事務局宛に送っていただきます。
所属医師会が入会している場合は個人の入会金は無料です。
所属医師会が入会していない場合は、入会金が **50,000 円** 必要となります。尚、初期設定費用として別途 **30,000 円** を承ります。

2. 利用料金

月々 **4,000 円** (レセプトオンライン請求も希望の場合は **5,000 円**) と年 **3,000 円** のウイルス対策ソフトライセンス料が必要です。ウイルス対策ソフトライセンス料とあわせて年間一括払いをお願い致します。

3. 機器の設置

機器設置用ヒアリングシートに必要事項をご記入の上、事務局宛にファックスまたは郵送願います。
シートに基づいて専門スタッフ (NTT 西日本ホームテクノ九州) が設置、動作確認に参ります。

4. 運用講習会

利用法の運用講習会です。講習後『講習会受講修了証』とアクセス専用 ID と仮パスワードをお渡し致します。

5. 同意書と登録

患者さまにあじさいネットに関する説明を行い、あじさいネットに参加するための同意書をご記入いただきます。取得した同意書は診療情報閲覧を希望する情報提供病院の医療連携室宛にファックスで送付して下さい。約 10 分後に連携室より手続き終了の FAX が届きます。この段階で利用可能です。

6. あじさいネットポータルサイトへのログイン

アクセス専用 ID・パスワードにてあじさいネットのポータルサイトにログインし、同意を得た患者さまの診療情報を閲覧することができます。

入会等に関するお問い合わせ先

あじさいネット事務局 (長崎県医師会事務局内) 担当: 三浦、苑田
電話 095-844-1111 FAX 095-844-1110

*手続き上、必要な様式ならびに同意書につきましては HP からダウンロードできます。



詫摩先生、今回もステキな
4コマ漫画ありがとうございました!

編集後記

5月19日に第3回「あじさいネット研究会」を大村市で開催いたしました。今回は、ほとんど広報しなかったにもかかわらず約130名のご参加を頂きました。全国に参加を呼びかけた第1回、第2回よりはるかに少ない数でしたが、ユーザーによる発表は、最も内容が充実していたと思います。このような研究会は他にもいくつかあるのですが、先日、富士通主催の「地域医療ネットワーク研究会」に参加してきました。長崎医療センターの木村博典先生と長崎市医師会の藤井卓先生が発表されるため応援のつもりでしたが、そこで驚いたのは、他の全4演題が全てスライドのどこかで、「あじさいネットを参考にしました」と記載されていたのです。

参考にされるのは、とても光栄なのですが… 責任はますます重くなりますね。
皆さま、くれぐれも正しい運用 (セキュリティルール厳守) をお願いいたします。

*ご感想は、あじさいネット事務局「aj-na@nagasaki.med.or.jp」まで

あじさいネット OFF LINE 通信 編集長 松本 武浩

広報誌に関わるご意見・ご要望は、長崎県医師会 長崎県あじさいネット拡充プロジェクト室までお寄せください。
電話 095-894-9655 FAX 095-894-9651 ajisai-project@nagasaki.med.or.jp
最新の情報は、HPをご覧ください。http://www.ajisai-net.org/